

「自助努力」「自己責任」時代の年金とは？ ～私の場合、老後はどうなるか～

1. ライフプランの必要性

～私の場合、老後はどうなるのか～

2. 年金制度の基礎知識

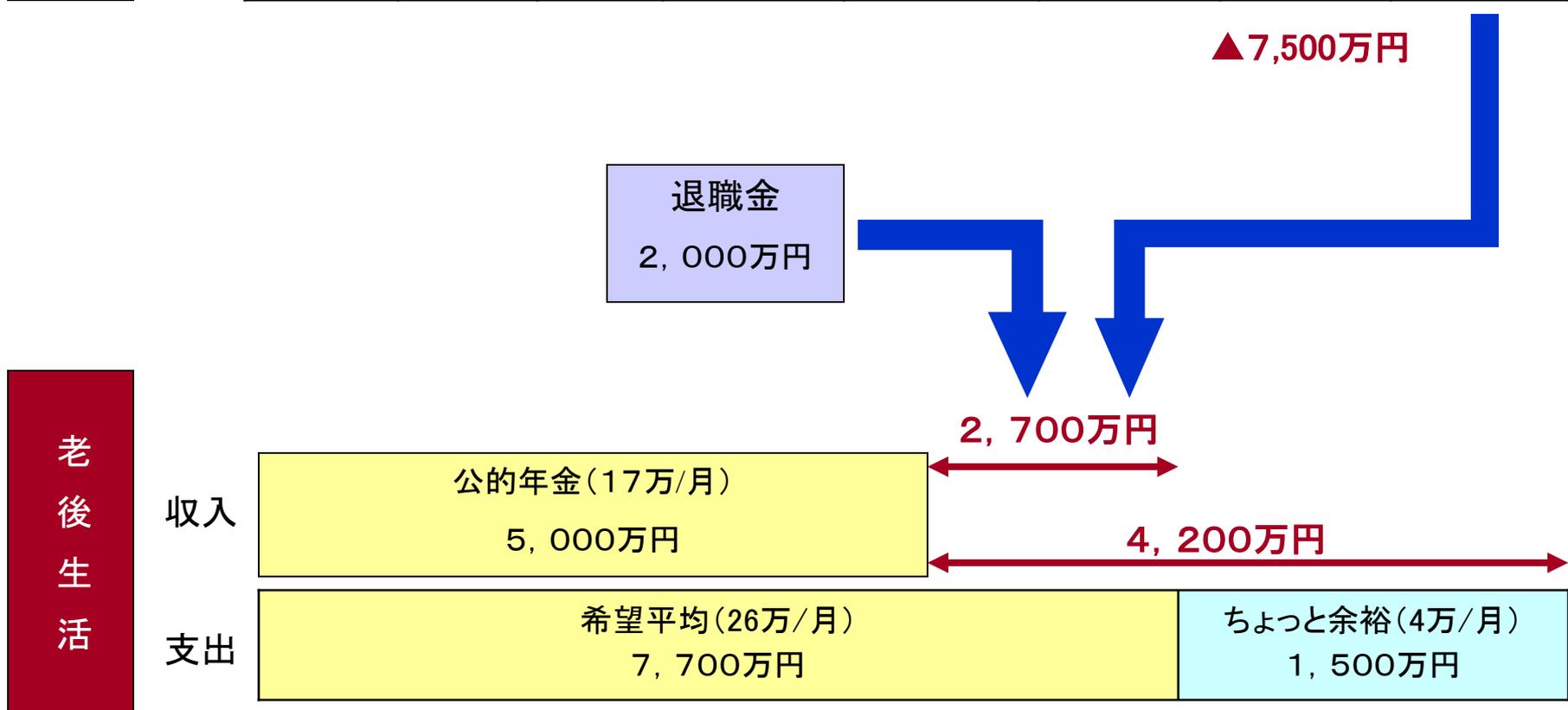
～私の年金はどうなっているのか～

3. 年金改革について

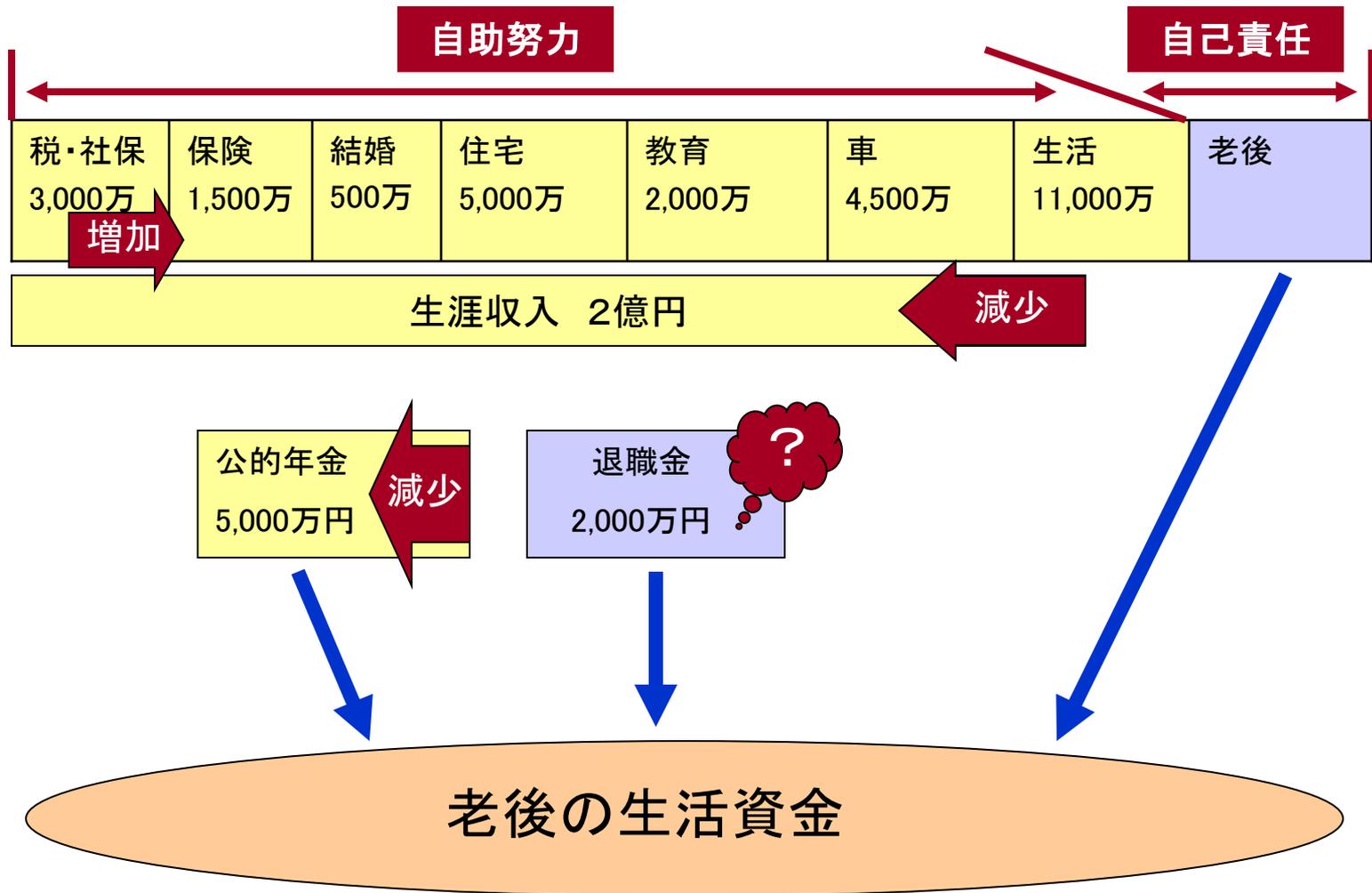
～これからの年金はどうなるのか～

現状のままで、老後の生活資金は足りるか？

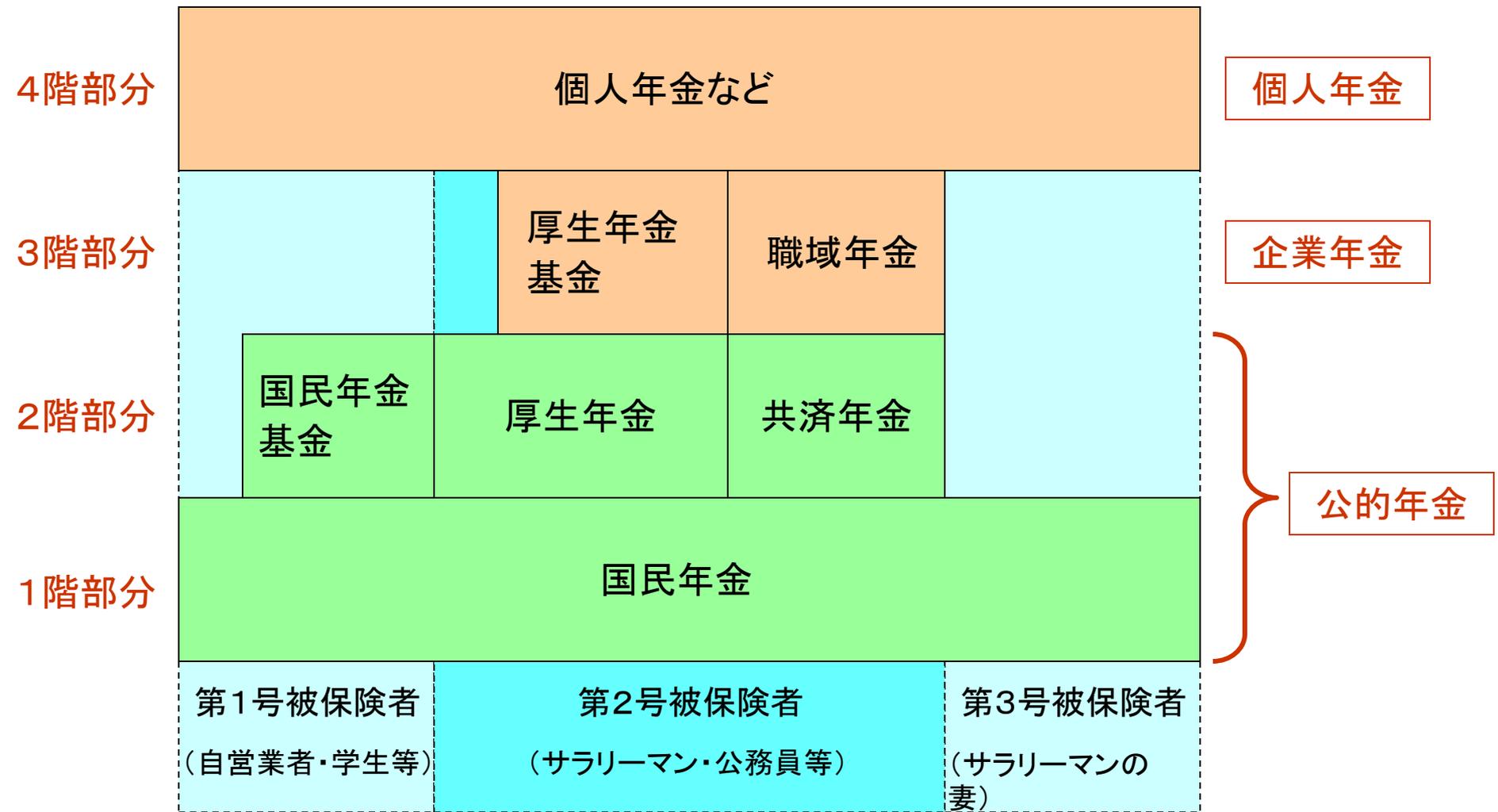
現 役 生 活	収入	2億円 40万/月 × 40年						共稼ぎ・援助
	支出	税・社保 3,000万 10~20%	保険 1,500万 3万/月	結婚 500万	住宅 5,000万 頭金500万 借2,500万 修繕500万	教育 2,000万 1,000万/人	車 4,500万 200万/7年	生活 11,000万 23万/月



老後資金を形成するために必要なことは？



年金の体系はどうなっているのか？



何故、年金制度は複雑怪奇になったのか？

昭和19年 厚生年金スタート	会社員を対象、積立方式
昭和36年 国民年金スタート	自営業者を対象、20歳～60歳(40年間)で満額
物価スライド制(物価上昇) → 賦課方式へ	
昭和61年改正	①サラリーマンの妻も国民年金へ加入 ②厚生年金も国民年金へ加入 ③厚生年金の支払開始を60歳→65歳へ 当分は60歳のまま(特別支給の厚生老齢年金)
平成6年改正	特別支給を半分へ 男:S16.4.2以降、女:S21.4.2以降
平成12年改正	特別支給を廃止 男:S28.4.2以降、女:S33.4.2以降 支給は65歳から 男:S36.4.2以降、女:S41.4.2以降

年金制度で何をしてもらえるのか？

未加入の場合、3つの保障がない！

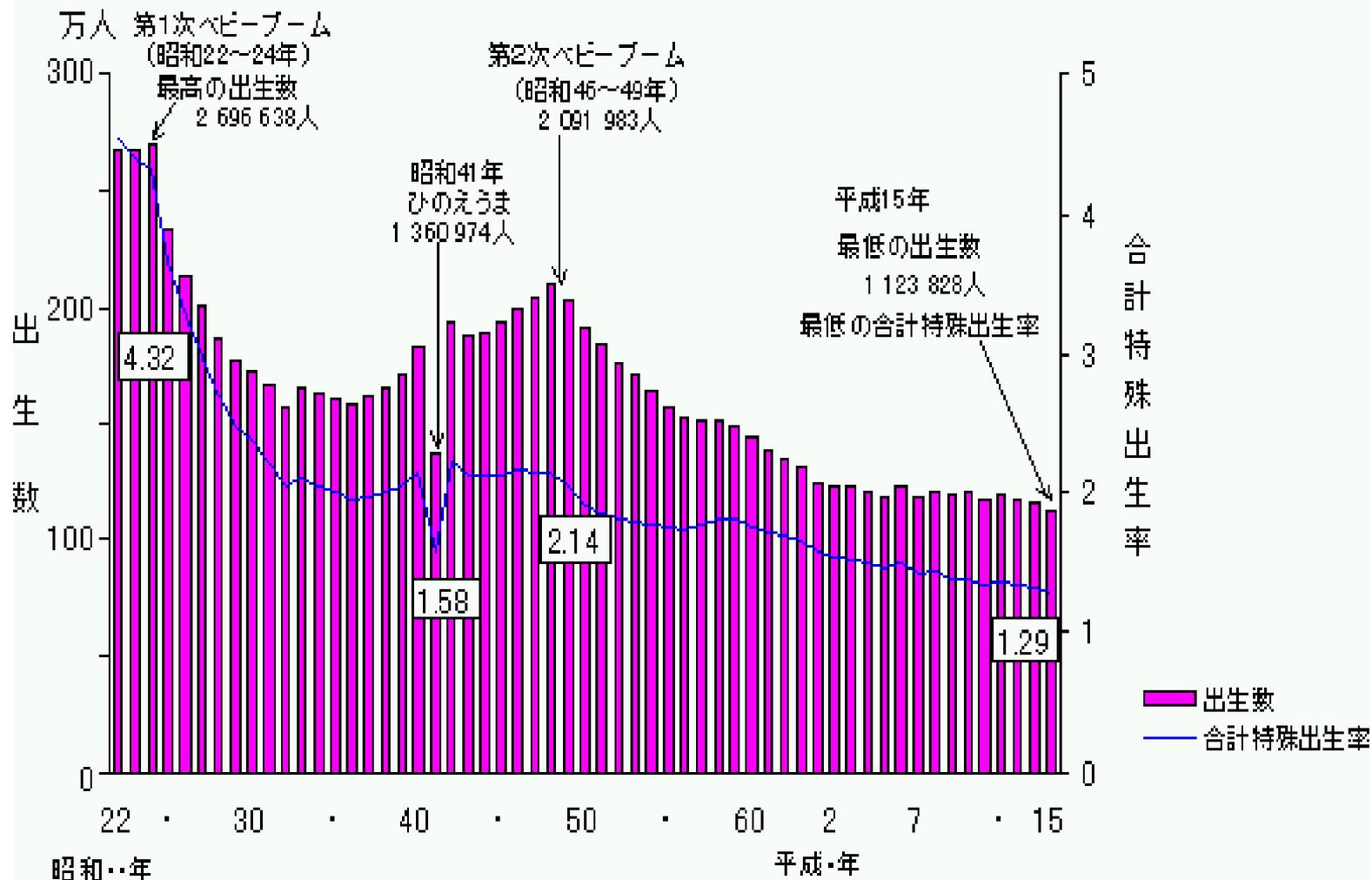
	国民年金	厚生年金
老後の保障	老齢基礎年金 65歳～終身	老齢厚生年金 65歳～終身 (特別支給あり)
死亡の保障	遺族基礎年金 子、子のある妻	遺族厚生年金 妻、子、孫、55歳以上の夫
障害の保障	障害基礎年金 1、2級	障害厚生年金 1～3級

いつから年金がもらえるのか？

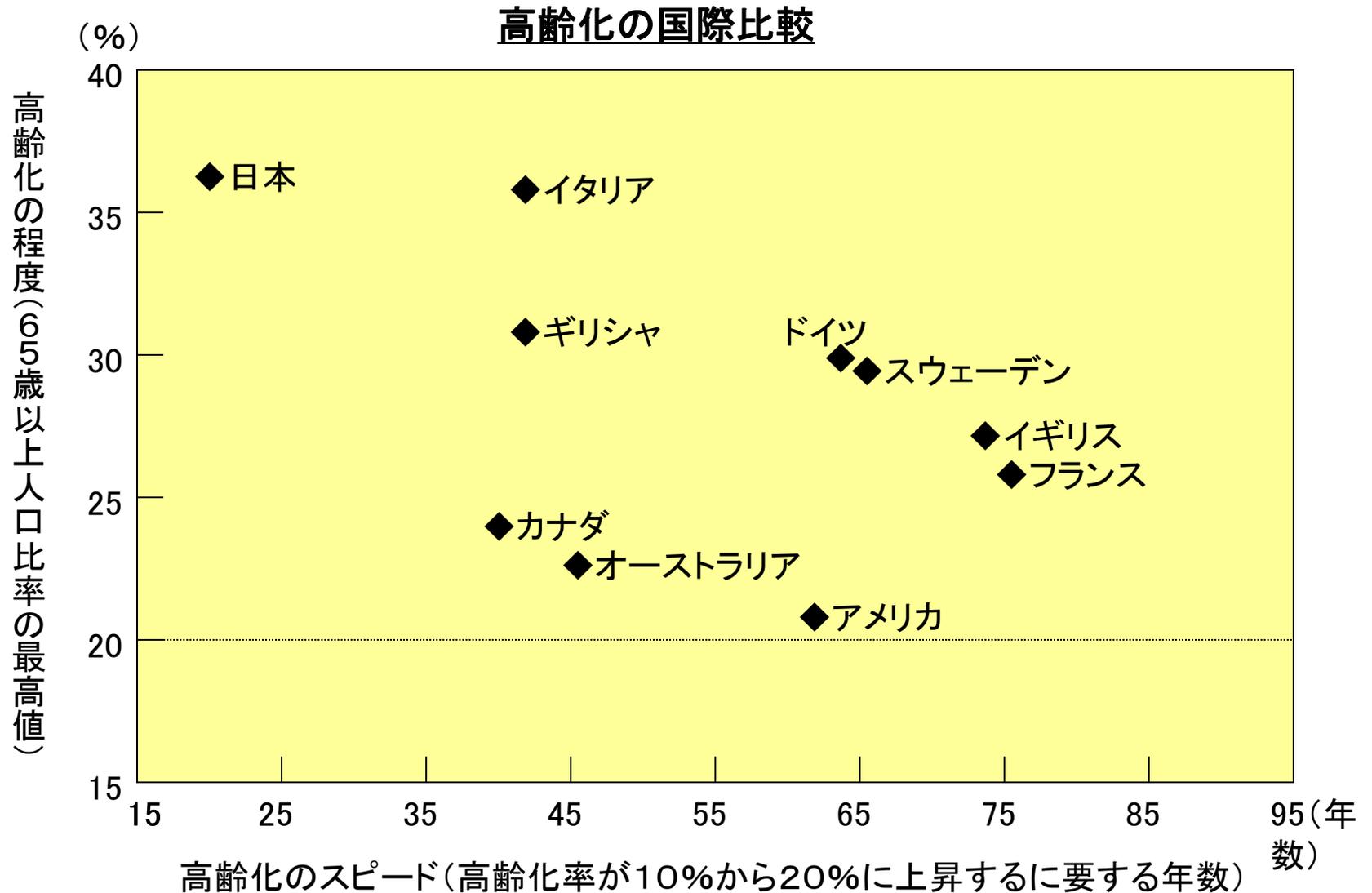
	60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳～
【男】昭和16. 4. 1以前 【女】昭和21. 4. 1以前	特別支給の 老齢厚生年金					老齢厚生年金 ＋ 老齢基礎年金
【男】昭和16. 4. 2～18. 4. 1 【女】昭和21. 4. 2～23. 4. 1						
【男】昭和18. 4. 2～20. 4. 1 【女】昭和23. 4. 2～25. 4. 1	部分年金					
【男】昭和20. 4. 2～22. 4. 1 【女】昭和25. 4. 2～27. 4. 1						
【男】昭和22. 4. 2～24. 4. 1 【女】昭和27. 4. 2～29. 4. 1	年金なし					
【男】昭和24. 4. 2～28. 4. 1 【女】昭和29. 4. 2～33. 4. 1						
【男】昭和28. 4. 2～30. 4. 1 【女】昭和33. 4. 2～35. 4. 1	年金なし					
【男】昭和30. 4. 2～32. 4. 1 【女】昭和35. 4. 2～37. 4. 1						
【男】昭和32. 4. 2～34. 4. 1 【女】昭和37. 4. 2～39. 4. 1	年金なし					
【男】昭和34. 4. 2～36. 4. 1 【女】昭和39. 4. 2～41. 4. 1						
【男】昭和36. 4. 2～ 【女】昭和41. 4. 2～	年金なし					

年金制度が直面する問題は何か？(その1)

人口の動き

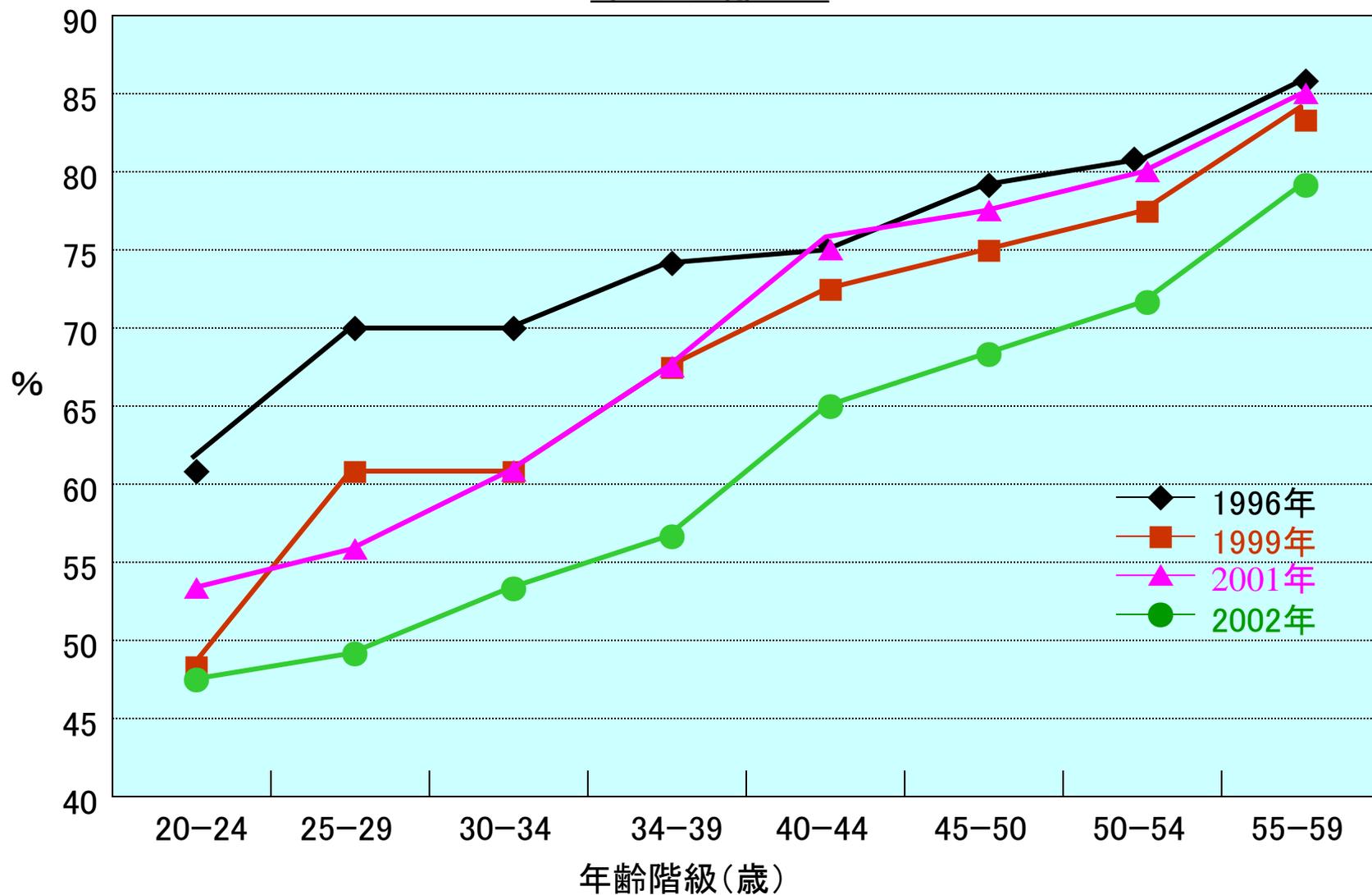


年金制度が直面する問題は何か？(その2)



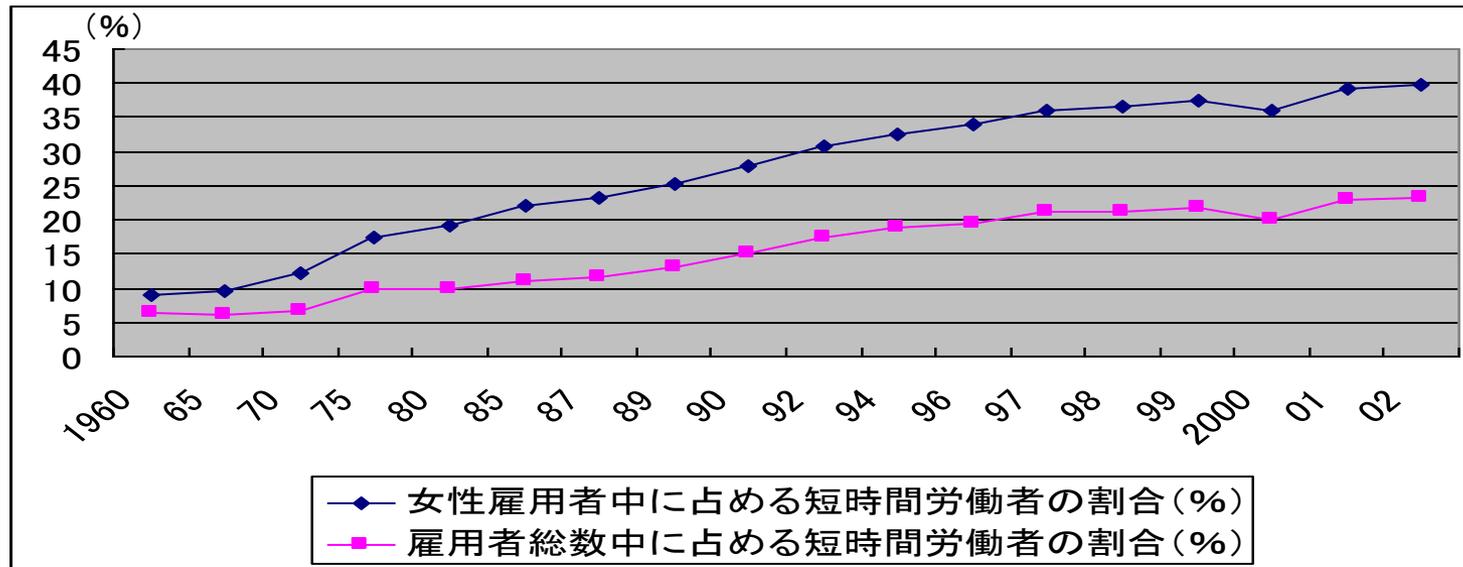
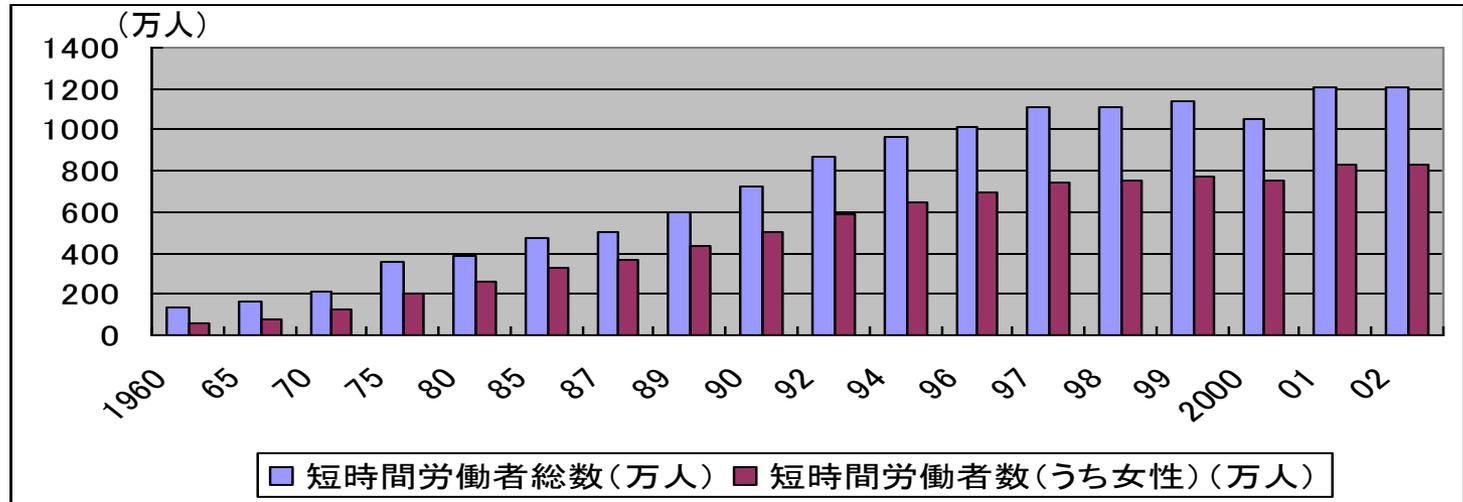
年金制度が直面する問題は何か？(その3)

年金離れ



年金制度が直面する問題は何か？(その4)

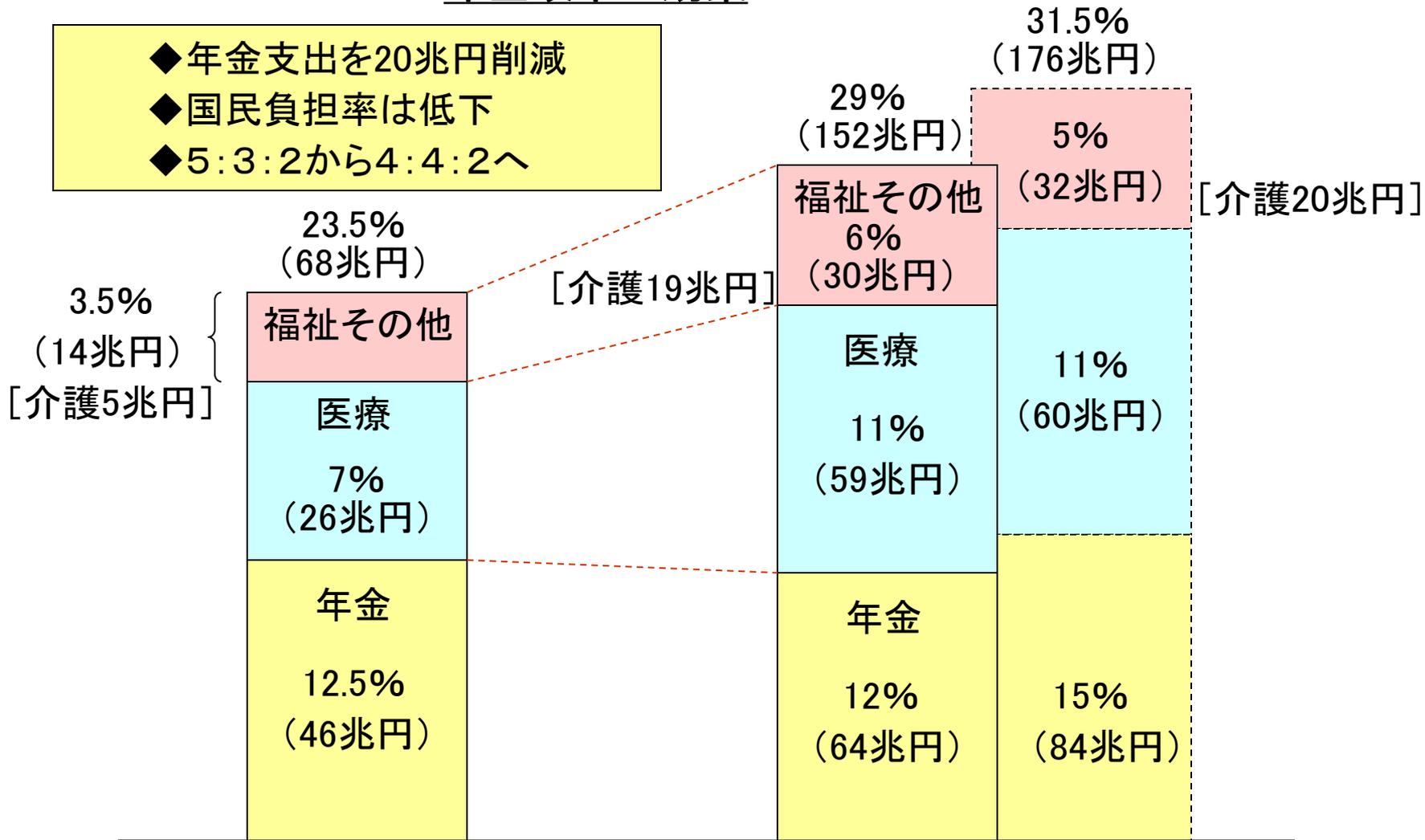
短時間労働者数の推移



2004年度の年金改革とは何か？（その1）

年金改革の効果

- ◆年金支出を20兆円削減
- ◆国民負担率は低下
- ◆5:3:2から4:4:2へ



2004年度
(予算ベース)

2025年度
(今回推計)

2025年度
基礎年金の国庫負担1/2とした場合

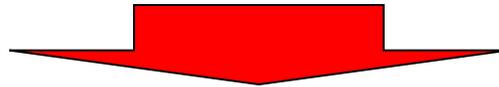
(注) %表示は国民所得比率、()内は実額

2004年度の年金改革とは何か？（その2）

【従来】

受給者：[物価スライド]

裁定者：[賃金スライド]



【マクロ経済スライド方式】

受給者：[物価スライド]－[年金加入者減少率]－[寿命伸び

裁定者：[賃金スライド]－[年金加入者減少率]－[寿命伸び率]

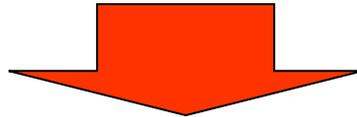
スライド調整

▲0.9%

年金改革の4つの選択肢

収入 = 平均賃金 × 保険料率 × 現役世代数

支出 = 平均年金額 × 年金受給者数



$$\text{保険料率} = \frac{\text{年金受給者数}}{\text{現役世代人数}} \times \frac{\text{平均年金額}}{\text{平均賃金}}$$

依存率 所得代替率

改革の4つの選択肢

- ① 所得代替率(59%)を固定、保険料率を引上げ(23%) **【従来方式】**
- ② 保険料率を固定(13.58%)、所得代替率を引下げ(36%) **【財界】**
- ③ 保険料率を少し上げ、所得代替率を引下げ **【2004年年金改革】**
- ④ 保険料率を固定、所得代替率を少し下げ、消費税アップ **【民主党案】**

今後の年金改革に向け、私は何をすべきか？

選択時に留意すること

◆社会保障(福祉・医療・年金)全体をどうするか！

私は何をすべきか ~自助努力・自己責任の時代に向けて~

◆ライフプランを作り、年金への依存生活から個性豊かな自立生活へ

- ①金銭教育・投資教育 →ファイナンシャル・プランナー
- ②健康管理 →ヘルスケア・マネージャー
- ③生きがい作り →ボランティア機関